

## <背景>

解釈検討第1部会の昨年度の主な活動として、別表第一から八を十二へ一本化する課題に関し、別表第一、四、七等について検討を行ってきた他、事故事例調査部会からの検討依頼に対し、「事故事例に対する提案」を新たに新設し、技術基準解釈や解説に捉われない位置付けとして、成果物を電気用品調査委員会ホームページで公開している。

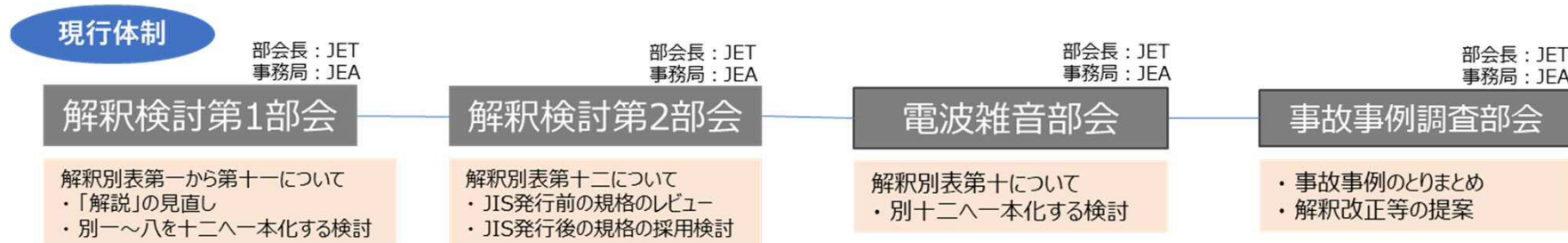
一本化検討に当たっては、別表第十二の整合規格を検討している解釈検討第2部会との連携が今後より一層重要であり、今年度は活動範囲を広げていくことを考えていかなければならない。また、解釈検討第1部会は、解釈別表第十を除く一から十一に関する課題（解釈若しくは解説の見直し）が検討対象となる。安全対策の「提案」活動の課題が今後出てきた場合に備え、検討する場を設立しておく必要がある。

## 体制見直しの主たる目的としては…

- ・ 解釈検討第1部会と第2部会の統合 課題ごとに必要なWGを設置
- ・ IoT関連の検討
- ・ その他（電波雑音部会、事故事例調査部会の在り方など）

### ※ IoT関連の検討課題として

令和5年度「電気用品、ガス用品等製品のIoT化等による安全確保の在り方に関するガイドライン」（製品安全課）の実効性確保、普及啓発に関するワーキンググループの活動成果を電気用品調査委員会にて引き継ぐこととなった。製品の安全確保に係る「機器の分類」、「リスクアセスメント手法の適用方法」、「ユースケース・リスクシナリオの検討成果」等の検討について、電気用品調査委員会における「提案」活動として取り組んでいく。（現状の部会体制では検討する場がない）



# 2024年度以降の主な課題

主な課題として  
次の4つに整理

## 「1. 一本化検討関係」

1a. 別八、十以外の一本化

1b. 別八の一本化

1c. 別十の一本化

1d. 別十一の廃止

1e. 別八の解釈、解説の検討

※一本化の完了と共に解散

## 「2. 別表第十二関係」

2a. [表1]の見直し(安全)

2b. [表2]の見直し(雑音)

2c. [表3]の見直し(遠隔)

2d. [表4]の見直し(表示)

2e. [表5]の見直し(事故)

2f. 別十二の解説の検討  
(対応表含む)

## 「3. 提案活動」

3a. 事故事例からの対応  
(解釈改正等の提案)

3b. IoT関連の検討

↑主にNTTデータ経営研究所の  
引き継ぎ案件や、別四に関わる  
電気用品調査委員会の報告書  
の見直し等

## 「4. 事故事例のとりまとめ」

4. 事故事例のとりまとめ

各課題に対応した検討体制の編成について、  
年内の電気用品調査委員会での承認を目指して検討したい

